

令和 8 年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、言葉の面白さや豊かさ、多様な見方やものの見方や考え方に気付く授業づくりの推進

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①児童が学習者用デジタル教科書やタブレット端末を日常的に活用し、言語活動に取り組む姿が見られる。
- ②領域や題材を通して、小中の学びの接続を見通した授業づくりが行われている。

未だ改善が必要な点

- ①県独自調査によると、「自分の考えや気持ちを伝え合うことができた」と回答する児童の割合について、改善の余地が見られる。
- ②外国語活動から外国語科への円滑な接続において、課題が見られる。

2. 要因分析

- ①授業者自身がICTを活用する研修会の実施や効果的な活用のモデル例を示したことで、授業改善の具体的なイメージを持つことができたと考えられる。

- ②小中の外国語担当が参加する研修会において、お互いの教科書を見合いながら、共通の題材から単元づくりを行ったことが要因として考えられる。

- ①内容のまとまりごとに言語活動を通した指導が行われているが、児童が実感や気付きを伴う活動に課題が見られる。

- ②中学年で初めて外国語に触れることや高学年以降の外国語学習への動機づけを高めていくことに課題が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②小中をつなぐ外国語教育推進研修会

全 6 教育事務所で実施。学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、小・中学校の教員が協議し、小中の円滑な接続のための視点を共有する。また、効果的な小中接続の実現に向けて、お互いの指導内容を理解し、中学校区における共同カリキュラムの作成を図る。

①②小学校外国語専科教員研修会

小学校外国語専科教員を対象とする研修会において、課題別協議とマイクロティーチングを通して、児童の深い学びの実現に向けた授業のあり方について共有する。

①②①②授業力ブラッシュアップ事業

教育事務所で実施する授業改善研修会の際に、言語活動を通して児童の資質・能力を育成する授業について理解を広めるとともに、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の重要性を確認する。

令和 8 年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

「生徒は英語で何ができるようになればよいか」の視点を踏まえ、日常的なデジタルの効果的活用を含む言語活動の充実と学習評価の改善

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 48.6% ⇒ R8 : 51%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力

CEFR A1相当以上を取得または有すると思われる生徒の割合が増加(R6 47.4%→R7 48.6%)

①教員の英語力

教員の英語力(CEFR B2)はR7全国平均を27.4ポイント下回っており、全国最下位の状況を継続していることが喫緊の課題。

②生徒の英語力

生徒の英語力(CEFR A1)はR6岩手を1.2ポイント上回ったものの、全国ではR6から2.2ポイント上昇しており、このままでは全国との差がさらに拡大していくことが強く懸念される。

③言語活動の在り方

授業中の言語活動の量は多い一方、生徒の英語力に結び付いていない課題が継続。

④学習評価(評価問題)の在り方

「生徒が何ができるようになればよいか」の視点からの授業改善が課題。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①言語活動を通した指導や、指導と評価の一体化について、助言・講義・公開授業等を通して推進した結果、授業改善の意識は一定程度高まった。また、技能検定とCEFRの対応整理により、見取りの精緻化を図った。

①研修機会の確保や外部試験受験奨励等を行ってきたが、教員の受験行動につながらなかったことが大きな要因と考えられる。

②③インプット・アウトプットのバランスに偏りがみられるなど、言語活動に不十分さがあるためと考えられる。目的・場面・状況を明確にした言語活動や評価問題の質的向上が必要である。

②③生徒の英語力と関連のあるALTの参画について、補助的役割にとどまる場合が多い。またICT活用も十分な成果に結びついていない実態がある。

③④「生徒が何ができるようになればよいか」の面から、小問レベルで目指す姿の具体的な想定や、授業中の学習状況の見取りなどに不十分さがある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①教員の英語力

研修会や訪問指導等において、教員の英語力向上の必要性について周知するとともに、英語資格試験割引制度の利用促進、受験奨励策等について検討を進める。さらに、教員採用試験にかかる英語資格加点優遇措置や英語有資格者特別選考を今後も実施していく。

①②③④デジタルの効果的活用による英語力向上事業

指定校方式により、4技能調査を生かしたデジタル教科書やMEXCBTの活用による英語力向上について研究し、実践の普及・拡大を図る。

①②③④授業アイデア例活用促進事業、授業実践アイデア例教材開発事業、調査問題等教材活用による授業改善推進事業

調査を生かした検証改善サイクルの確立を通して、学習指導要領の趣旨を理解し、外国語の学習過程を踏まえた授業ができる教員を育成する。併せて、生徒の学習状況の見取りを随時適切に行うなど、指導に生かす学習評価の充実を図る。

①②③④県独自調査(学習定着度状況調査)の実施

全国学調の問題等を参考とし、目的・場面・状況を明確に設定した評価問題による県独自調査(中2対象)をCBTで実施するとともに、学校現場における指導と評価の一体化・授業改善に向けた結果活用を支援する。

①②③④中学校授業力ブラッシュアップ事業

質の高い授業提案を中心とした授業改善研修や、評価問題の改善に係る研修を通して、教員の授業改善・充実に促進する。

令和 8 年度 岩手県 英語教育改善プラン

「生徒は英語で何ができるようになればよいか」の視点を踏まえ、AIアプリやICTの効果的活用を通じた授業力向上及び技能統合型言語活動の充実

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 49.4%、B1以上 18.3% ⇒R8 : A2以上 57%、B1以上 24%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力

CEFR A2及びB1以上の生徒について、割合が増加。
(A2 R6:47.2%⇒R7:49.4%)
(B1 R6:17.2%⇒R7:18.3%)

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力に直結しない教師の英語使用状況と言語活動

授業中の教師英語使用状況は高く、また、授業中の言語活動量が多い（県独自調R7:64.2%）一方、そのことが依然として生徒の英語力に結びついていないことが課題。

②生徒の英語力

生徒の英語力（CEFR A2及びCEFR B1）は、依然として全国との差があることが課題。

③教員の英語力

教員の英語力(CEFR B2)は全国比R6+0.4からR7-4.9ポイントに悪化。全国との差が上昇から減少に転じたことが課題。(R7:80.0%)

2. 要因分析

①個別訪問や研修会において、「生徒は何ができるようになればよいか」の視点を意識した指導とその見取りを含む授業改善を推進した。学習到達目標を意識した授業づくりがある程度進んだと考えられる。

①②③生徒の適切な見取りをもとに、目的や場面、状況を明確にした言語活動の質的な改善がさらに必要である。さらに、学習到達目標をもとにした生徒の理解度や習得状況に応じて英語使用の質を調整できる教師の指導力がさらに求められる。

①②授業中における生徒の見取りの精度に課題があり、生徒の自己調整学習を促す指導力不足により、生徒が英語で何ができるようになればよいかの視点での授業づくりに課題が残る。

②生徒の英語力と相関のあるALTの参画について、本県では補助的役割にとどまる場合が多く、また英語力向上に有効とされるICT活用も十分に成果へ結びついていない実態がある。生徒が多様に英語に触れ、能力を効果的に伸ばすためのALT活用やICT活用(AI活用含む)への転換が急務である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②AI活用による英語教育強化事業

AI活用モデル12校は、AIアプリ活用による生徒の見取りの精緻化や生徒の自己調整学習への活用を通じ、生徒の英語力向上を図る。AI英語モデル校以外の学校は、AI活用事業で得られた知見や実践事例を個別訪問や授業実践セミナー・研修会で共有し、各校の指導改善にいかす。

①①②授業実践セミナー・研修会（英語）

県内の小中高における希望教員を対象とし、ICTやAIの効果的活用を含む公開授業・研究協議及び講義・演習等を通じて、生徒の資質・能力の育成に向けた学習指導力強化を図る。

①①②各校のCAN-DOリストに基づく評価と一体化した指導の充実
個別訪問や研修会を通じ、教師一人ひとりが、適切なCAN-DOリスト（ゴール）を設定し、そのゴールから逆算して単元目標や授業計画を立て、日々の授業を検証しながら改善できる力を身につけられるよう支援する。

①②英語発信力強化事業の推進

授業外のALT参画を促す事業として、イングリッシュワークショップ及び英語ディベート大会を通じて、生徒自らの考えや気持ちを英語で発信できる生徒の英語発信力強化を目指す。

③教員の英語力

英語資格未取得者については英語資格試験割引制度の利用促進や受験奨励を行う。また、教員採用試験にかかる英語資格加点優遇措置や英語有資格者特別選考を実施しているところである。

岩手県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		51	48.5	53	47.2	55	49.4	57		59	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		18	12.5	20	17.2	22	18.3	24		26	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	82.6	100	82.6	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		80	71.5	82	75.1	84		86		88	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	85	77	86		87		88		89	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	76.5	72	82.6	74	80	76		78	
	⑥英語担当教員の授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	64.6	100	71.8	100	77	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	38.4	47	47.4	49	48.6	51		53	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85	75.2	86		87		88		89	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		97	91.7	98		99		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	75	71.5	77		79		80		82	
		達成状況の把握（％）	100	91	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		22	22	24	23.3	26	31.2	28		31	
	⑥英語担当教員の授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		81	66.7	83		85		87		89	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	60	66.2	62		64		66		70	
		公表（％）	50	41.3	52		54		56		60	
		達成状況の把握（％）	50	61	52		54		56		60	